

日本学術会議社会学委員会 Web 調査の課題に関する検討分科会
(第 24 期・第 5 回会合)

開催日時：2019 年 6 月 29 日（土）13：00～15：00

開催場所：お茶の水女子大学 大学本館 315 室

出席者：佐藤嘉倫、吉川徹、今田高俊、石井クンツ昌子、大谷信介、川端亮、盛山和夫、
玉野和志、前田忠彦、杉野勇

欠席者：遠藤薫

議事要旨

1. 第4回会合議事要旨の確認

2. 「提言」の章立ての確定と担当者決定

佐藤委員長より資料に基づき、提言（仮題「Web調査を学術的に有効活用するために」）の概要についての説明があり、その後、詳細な内容と執筆分担について検討した。また、自治体のWeb調査の事例も紹介された。議論の主な内容は次の通り。

- ① 全体的に強調するのは、Web調査が既に学術領域で活用されていて、社会学でも無視することはできない状況になり、学術的な研究として学術関係者が評価しなければならない状況になってきたことである。
- ② 「学術的」な有効活用だけではなく、学術以外の領域（例として官庁やマーケティング）におけるWeb調査活用の情報のレビューも必要だろう。
- ③ Web調査を学術的なデータとして活用する場合、どのWeb調査会社がどのようなモニターを選んだ調査なのかなど、データの「再現性」を含むデータの質の管理を確認する必要がある。
- ④ 社会学においてこれまでWeb調査を活用した研究の事例を入れる提案があった。
- ⑤ 「代表性」についての議論は必要だが、一定の条件に合致したサンプルの場合、Web調査も有効であろう。
- ⑥ 「提言」ではモニターによるWeb調査に焦点をあてる。
- ⑦ サンプルの代表性とWeb調査の手段の問題について分けて議論したほうがよい。

以上の議論に基づき、章立てと執筆担当者を決定した。9月末までに草稿を委員長に提出して、その後、執行部で検討することになった。

3. 次回分科会の日程は予算の状況がわかり次第、調整する。

以上